

全国
対応

所有地の水は安全ですか？

PFOS・PFOA分析で
厳格な水質管理をサポートします！

全国で問題となっている PFOS・PFOA の分析にお困りではありませんか？



液体クロマトグラフ質量分析計 (LC-MS/MS)

地球全体に広がる PFOS・PFOA

PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）は半導体用反射防止剤、金属メッキ処理剤、泡消火薬剤等、PFOA（ペルフルオロオクタン酸）はフッ素ポリマー加工助剤、界面活性剤等に幅広く使用されてきました。これらは難分解性、高蓄積性、長距離移動性の性質から、世界中に広く残留しています。

健康と環境の未来を守るためのPFOS・PFOA分析

法的対応も万全。安全な水のためにできること

国際条約—POPs 条約に基づき、PFOS は 2009 年に、PFOA は 2019 年に廃絶対象とされ、我が国では化審法に基づき製造・輸入を禁止しています（PFOS は 2010 年、PFOA は 2021 年）。水道水では、厚生労働省が 2020 年に PFOS と PFOA の合算値で 50ng/L 以下の暫定目標値を設定し、水環境についても 環境省が同様の要監視項目暫定指針値を公共用水域や地下水において定めています。

国が定めた水質等の基準を踏まえて
PFOS・PFOA濃度を厳密に分析！



お見積り無料！お電話1本で全国対応！
お気軽にお問い合わせください

株式会社エオネックス
Eonex 環境事業部

076-238-9685
〒920-0209 石川県金沢市東蚊爪町 1-19-4



エオネックスが新規導入

米国社製の質量分析計

規制対象PFOS、PFOAに対応



エオネックスに導入された液体クロマトグラフ質量分析計

エオネックス（金沢市、市山勉社長）は、このほど、新たな規制対象物質として人の健康や環境に悪影響を及ぼす可能性が懸念されているPFOS（ペルフルオロオクタン酸）、PFOA（ペルフルオロオクタンスルホン酸）、PFOA（ペルフルオロオクタンスルホン酸）の分析に対応できる液体クロマトグラフ質量分析計「Agilent 6475 トリプル四重極（LC-MS/MS）」を新規導入、本格稼働させた。

PFOS、PFOAに代表されるPFAS（有機フッ素化合物）は、水や油をほじき、耐熱性が高いなどの特性から撥水剤や表面処理剤など幅広い用途で活用されているが、近年、両物質の難分解性、高蓄積性、長距離移動性から地球規模での環境残留性や生体蓄積性が明らかになり、水道水の原水および浄水からも検出される状況が続いていることから、濃度の把握、水質の適切管理が不可欠となっている。

環境残留性高く、法規制化も 市山社長「汚染源特定から対策工まで提案」

今回の導入の「LC-MS/MS」は米国社製で、堅牢性と汎用性を備え、高性能かつ、分析結果を素速く検証できるのが特徴。様々なパラメータを同時に評価し、作業スピードが格段に向上する。エオネックスではすでに石川および福井県内の自治体の浄水場をはじめ、金沢市内におけるホテルの水道水の調査・分析の依頼があり、

社会的ニーズは高くなっている。PFOSおよびPFOAの暫定目標値は合算値で50ナノグラム/Lと極めて低く、PFASに分類される物質は数千種類に及び、今後、規制対象となる物質がさらに増える可能性も指摘されている。エオネックスではこうした動きをにらみながら、今後、水道事業者やコン

サル会社、不動産関係、産業廃棄物処理業者、各種製造業者からの需要が一層高まるものと見込み、5年後の売上目標として1億円を掲げている。

市山社長は「こうした規制対象物質は今後、土壌汚染対策法でも義務化されることも想定される中、当社は同法に基づく指定調査機関でもあり、調査から分析・対策工事までを一貫してできる態勢が整っている」と強調し、自社調査班として5班を保有できていることから「これまでの知名度と自社対応によるスピード感を最大限に生かし、分析のみならず、対象物質の汚染源の特定や拡散状況はもちろん、水や土壌の浄化技術の提案、浄化工事の提供まで、他社に先駆けて全力で取り組んでいきたい」としている。



新事業を説明する環境事業部の八島良介氏（左）、宮本直人氏（右）